

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりを大切に、生徒が生き生きとする学校づくりをめざす！

- 1 これからの社会を生き抜く、本当の「生きる力」（「自立」（自律）、「創造」、「協働」できる力）を身につけさせる。
- 2 地域に根差した魅力ある学校づくりを進める。
- 3 大阪府の「府立高等学校再編整備方針」に基づき、普通科総合選択制から総合学科への改編に取り組む。
- 4 「安全安心な学校づくり」を中心に据えに生徒一人ひとりを大切に、「面倒見の良い」学校づくりをめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

（1）「生きる力」を育成するための授業改革に取り組む。

ア 生徒の主体性を育てコミュニケーション能力を身につけさせるために、グループワーク形式や問題解決型、参加体験型、双方向型の授業形態を積極的に取り入れ、言語活動の充実を図る。

（2）キャリア教育の充実を図る。

ア H23年度から取り組んできた「実践的キャリア教育」の取組み・成果を継承し、生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育て、社会の中で自立し、学び続けようとする生徒を育成する。

イ 社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を発見し、社会に貢献することを喜びと感ずることができる生徒を育成する。

2 地域に根差した魅力ある学校づくり

（1）大阪市西部のベイエリアに立地する学校という特色を生かし、地域の企業、施設などの外部と連携し、職場体験・実習などの活動を充実させる。

ア 地域の企業、施設あるいは区役所と連携しインターンシップや職場体験を充実させる。

（2）広報活動を充実させ、「魅力的な学校」、「入って良かった学校」としての認知度を高める。

ア 中学校訪問、説明会を積極的に展開し大正高校の認知度を高めるとともにその教育内容の理解を広める。

（3）部活動の活性化を図り、地域に貢献できる部活動づくりを進める。

ア 部活動の参加率を上げるとともに、活動を地域にアピールでできるような取組みを進める。

（4）生徒、保護者、地域の多様なニーズに応え、進路指導の充実を図り、就職内定率、進学決定率の向上を図る。

3 「府立高等学校再編整備方針」に基づく総合学科への改編へ向けての取組み

（1）H25年度のCR(クイット)委員会の活動の成果を引き継ぎ、新たなプロジェクトチームで改編の実現へ向けての具体的な施策に取り組む。

ア 社会、地域のニーズを把握し、育成すべき生徒像を確立する。

イ 総合学科のコンセプト、系列、「産業社会と人間」と「総合的な学習の時間」、などの学校の中心となる根幹部分を策定する。

ウ 総合学科としての校内組織の在り方についての検討を進め、組織改革に取り組む。

エ 総合学科に見合った教務や生徒指導の内規について検討する。

4 安全安心な魅力的な学校づくり

（1）生徒理解の促進と教育相談体制を充実し、中退防止に努め、中学生や地域への広報活動の充実を図る。

ア 教育相談委員会・就学対策委員会の活動や中退防止の取組みを充実させるとともに、委員会と学年との連携をいっそう図り、生徒情報の共有化を促進する。

イ 中学校訪問・中高連絡会を継続し、生徒理解を深め、中途退学者の減少に努める。

ウ 対人関係スキルの向上をめざすプログラムを導入し、人間関係のトラブルの減少を図る。

（2）防災教育の充実を図る。

ア 大阪湾に近い本校の立地から、南海トラフの大地震を想定し、学校生活における安全確保にとどまらず、一般生活で自分の身の安全を守る方法や、周囲・地域の人への貢献を考える姿勢などを身につけさせる。

（3）環境問題・国際貢献を考えるためのエコキャップ運動に取り組む。

（4）生徒が自らの健康と安全を考えるため、薬物乱用防止、喫煙防止に積極的に取り組む。

（5）進化の著しい携帯情報端末機器（スマートフォン、タブレットなど）の正確な知識を習得し理解を進め、安全な使用法を身につけさせる。

（6）生徒が安全・安心に学校生活を送れるよう、事故防止を観点におき施設・設備の充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生徒向けアンケート】</p> <p>全般的に向上し、学習指導、生徒指導、進路指導をはじめ学校改革が生徒に浸透しつつあることが数値として現れた。アクティブラーニングの導入でグループワークを行うことに授業規律や進度の面で不安もあったが先生方の周到な準備等の努力の結果、大きな混乱もなく導入できた。学習面での成果も大きかったが、生徒同士がコミュニケーションを深める授業形態がクラスのみをまわりを生み、その結果、集団育成が進み、生徒への指導のしやすさにもつながったと分析できる。また丁寧な生徒指導も功を奏し、遅刻者数が激減し、問題行動も減少、安全安心な学校づくりが中退者の減少に結びついているといえる。</p> <p>＜学習指導＞</p> <p>学校全体でアクティブラーニング導入に取組み、数値が向上した。特に『考えをまとめたり、発表する機会』の項目が53%→68%と大きく伸びた。学年では積極的にグループワークなどを取り入れた2年生の伸びが特に大きかった。授業アンケートの結果でも『興味・関心を持つことができた』の数値も上がり（偏差値換算+3.4）、学校の取組みが生徒の学習意欲向上</p>	<p>【第1回】(6/19)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画については理解・了承でぜひ実現に向けて努力してほしい。 ・再編整備の方向性は理解し応援する。時期については状況を理解した。 ・遅刻指導とあいさつ運動の成果が期待できるので今年度の年末の結果を楽しみにしたい。 ・学校生活支援カードの活用成果を期待したい。 <p>【第2回】(11/13)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再編整備見送りは了承する。動きを止めることなく今後の進展を期待する。 ・新制服のデザインは申し分なく、様々な工夫に関心する。 ・授業改革（アクティブラーニングの積極導入）の取組みに期待したい。 <p>【第3回】(2/6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動の成果は学校外でも実感できる。あいさつや親切な行動にも表れている。 ・遅刻指導の成果が挙げられていることは素晴らしい。 ・自転車のマナー、スマートフォン、SNSについての指導はもっとしていただきたい。 ・宿題や課題を工夫し生徒の意欲をもっと喚起してほしい。成績不振の生徒については定期テスト後の追指導も行っているが、定期テストで成果が出るような事前の指導にも、もっと力を注いでほしい。

<p>につながっている。</p> <p>《生徒指導》 遅刻指導を厳しくし、毎日指導という丁寧な指導を展開した。実質的な数値は昨年度の半数以下となった。(12369→5983) それに対して生徒の反応も 64%→67%と満足度は少し上がっている。あいさつ運動も功を奏し、今回の調査項目にはなかったが、日常的にあいさつが交わされる場面が増えた。</p> <p>《進路指導》 実質的な進路決定結果の数値も上がっているが、診断の結果も 71%→77%と伸びており丁寧な進路指導の結果が反映している。</p> <p>《生徒会活動》 部活動(65%→74%) 学校行事(73%→75%)と数値は上がっておりクラブ代表者会議や生徒会の定例会などの新たな生徒会の取組みが生徒に伝わっている。部活動の加入率も 30%→42%と上昇した。</p> <p>《保健・安全指導・教育相談》 いずれも数値は向上している。特に教育相談(57%→61%)、疾病や体調不良の対応(72%→76%)、交通安全・薬物について(76%→78%)と少しずつ上昇しているが最上位区分の数値が上がっていることで生徒へ良く浸透してきたといえる。</p> <p>【保護者向けアンケート】(回収率 68%) 大きく伸びたのは生徒指導や生徒会活動についてである。『生徒指導方針の納得度』(67%→81%)、『健全育成の努力度』(72%→83%)、『快適な学校生活』(77%→83%)、『プライバシーの大切さ』(79%→87%)、『生徒の身になって考え、行動』(74%→81%)『文化祭・体育祭などの学校行事』(77%→86%)などが大きく数値を伸ばした。これらは生徒指導部や担任をはじめとする教職員の丁寧な対応が反映した結果と言える。また体育館の耐震工事や全面改修を行ったにもかかわらず、施設・設備面の数値があまり上がらなかった。全体として取組みの不十分さを考える必要がある。</p> <p>【教職員向けアンケート】(回収率 98%) 特筆すべきは学習活動への取組みで『授業の工夫・改善』の数値が 67%→83%と大きく上昇している。これは学校全体で授業改革に取り組んだことを表している。またこれにも関連するが学校経営計画の理解度と取組みについてもかなり上昇した。(81%→92%)</p> <p>反対に、現実の取組みとしては例年とあまり変わらなかった、あるいは例年以上に取り組んだはずの部分について教職員は不足と感じるデータが増えている項目があるが、これは『今まで通りであればそれで良い』という感覚から『もっとやりたい。やらなければならない』との意識の変化ととらえることができ、次年度以降に期待したい。(キャリア教育、人権、防災、施設・設備など)</p> <p>PTA 活動に対しては 65%→81%と大きく向上し、連携の大切さが教職員にも浸透してきたといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学校教育自己診断の回収率が上がっているのは評価できる。保護者の関心の高さや教職員の積極的な姿勢が表れている。 • ホームページの更新が組織で対応できているのが素晴らしい。なかなか大変だとは思いますが良くできている。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)「生きる力」を育成するための授業改革 (2)キャリア教育の充実	(1) ア 授業改革に結びつく企画(パッケージ研修)を利用し授業改革の進展を図る。 自己診断で「わかりやすい」「工夫」の数値アップを図る。 (2) ア 進路カルテのさらなる活用を図る。 イ 大正高校版「キャリアワーク集」をさらに生徒に適切なものになるよう改訂を進め、一層の活用を図る。 ウ 校外学習や社会見学をキャリア教育の一環に取り入れる。	(1) ア 学校教育自己診断で「わかりやすい」80% 「工夫している」80% (2) ア 記入状況を閲覧し把握する。 イ 「キャリアワーク集」の編集状況を点検する。 ウ 実施できたかどうかを確認する。	(1) ア ・パッケージ研修・アクティブラーニングの教職員研修で生徒主体の授業改革に取り組む成果が挙がる。教員全体の48人中35人がアクティブラーニングの授業を実施した、生徒の満足度も上昇した。自己診断の結果は()は昨年度「わかりやすい」・・・75%(71%) 「工夫している」・・・76%(70%) 「発表する機会がある」68%(53%) (◎) (2) アイ ・進路カルテ・キャリアワーク集の活用は充分にできた。1・2年生で「ジョハリの窓」(自己分析ツール)などを用いて「自分を知る」取組みを実施した。(◎) ウ ・2年生はエリア別の校外学習、1年生は校内職業体験を実施した。(○)

2 地域に根差した魅力ある学校づくり	<p>(1) 職場体験・実習などの充実</p> <p>(2) 広報活動の充実</p> <p>(3) 地域に貢献できる部活動の活性化</p> <p>(4) 進路指導の充実</p>	<p>(1) ア 地域の企業、施設、区役所などと連携しインターンシップや職場体験を充実させる。</p> <p>(2) ア 中学校訪問、説明会を工夫する。よりわかりやすい内容に工夫し大正高校の認知度と理解度を高める。また説明会については参加者数の増加を図る。 イ 広報新聞「元気マンニュース」の発行とポスターの作成</p> <p>(3) ア 体験入部、部活動紹介を活性化させ、部活動の参加率を向上させる。 イ 活動状況を連絡黒板、生徒会ニュース、元気マンニュース、学校ホームページなどを用いて積極的に応援する。</p> <p>(4) ア 就職内定率、進学決定の上昇を図り進路未定率の減少を図る。</p>	<p>(1) ア 参加生徒数、参加状況を把握する。 インターシップ 9件→15件 職場見学 115件→140件</p> <p>(2) ア 件数 105→120校 内容については毎回リハーサルを行い点検する。 参加者数 124人→150人 イ 元気マンニュースの発行 7回→8回 400部→500部</p> <p>(3) ア 加入率 30%→40% イ 掲載状況を点検する。</p> <p>(4) ア 就職内定率 100% 進路未定率 12% 進学決定率 100% * 進路未定者については進学浪人や非正規雇用から正規雇用をめざす生徒が一定数存在するため過度な追及は行わない。</p>	<p>(1) ア ・インターシップや職場見学は件数としては大きくは増えていないが参加状況は良好である。インターシップ 9件→12件 (○) 職場見学 115件→98件 (原則、就職希望者全員参加で就職希望者の2割減と1次決定が多いので数は減少) (○)</p> <p>(2) ア ・中学校訪問は内容を充実し好評を得た。(秋にも在校生の状況(3年生の進路など)報告を追加した)。訪問数 121校 (○) ・説明会の参加者数は約132名とやや増えた。(△)(第2回3回の合計数) ・内容については毎回リハーサルを実施し管理職や担当者の意見を取り入れ改善に努めた。(○)</p> <p>イ ・元気マンニュースは予定通り8回発行。装丁・内容が充実し(冊子の形式に変更)よりわかりやすく見やすくなった。発行部数はカラー以外にも白黒で増刷し約3000部となった。(◎) ・JR大正駅にポスターを掲示し認知度を高めた。(◎) ・H27年度から新制服に変更を行った。(◎)</p> <p>(3) ア ・部活動加入率は約42%(昨年度30%)で大幅に向上し。さらに見学週間を秋に設け、再加入を呼び掛け成果が挙げた。(◎)</p> <p>イ ・HP更新回数 56回(昨年度51回)</p> <p>(4) ア ・就職状況については就職内定率 45/45(100%)で目標を達成した。 ・進学決定率は60/60で100%となり目標値となった。(○) ・未定率は実質9%と健闘したが今後については多様な進路選択のためこれ以上の改善は難しい部分がある。 ・進学については大学が増え専門学校が減少した。(就職も減)</p>
3 総合学科への改編に向けての取り組み	<p>(1) プロジェクトチームの積極的な活動</p>	<p>(1) 改編に向けてのプロジェクトチームの動きを活性化させる。 ア 育成すべき生徒像を確立させる。 イ 根幹部分になるコンセプトづくり、系列、「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の内容を検討する。 ウ 総合学科としての校内組織を検討し、その改革に着手する。 エ 総合学科に見合った教務や生徒指導の内規について検討を進める。</p>	<p>(1) プロジェクトチームの進展状況を把握する。その都度経過を職員会議で報告する。</p>	<p>(1) アイウエ ・「総合学科改編に向けての取組み」として国立教育政策研究所の提唱する21世紀型能力を基盤に本校の育成すべき生徒の能力として「やってみる力、協働する力、創造する力、考える力」が職員会議に提示され教職員間で共通認識された。(◎) ・再編整備の対象校にはならなかったが、新たなタイプの総合学科プランを構築できた。(◎) ・系列づくりが完成した。(アックヨク・チームワークイティブ・ツキツク)必履修科目の配置も完了し、選択科目を創出・整理中である。(◎) ・今後は組織・システムの改革に向けて検討を進めさらに内規の整備を進めたい。</p>

4 安全安心な魅力的な学校づくり	(1) 支援体制の充実	(1) ア 就学対策委員会などを活用し支援の必要な生徒のサポートに努める。 イ 生活支援カードを活用し、生徒実態の把握に努め支援体制の充実を図る。 ウ 中学校訪問、中高連絡会の充実を図り生徒状況を的確に把握する。 エ 1年生において対人関係スキル向上のプログラム導入を図る。	(1) ア 回数を把握し内容を検討する。 イ カードの使用状況を点検する。 ウ 件数を把握し、内容については点検する。 エ 中退者 35→20 人以下 遅刻者数 11589→8000 以下に減らす。	(1) アイ ・就学対策委員会で高校生活支援カードを活用し早期に状況を把握し対応できた。(◎) ウ ・中学校訪問、中高連絡会を計画的に実施し、早期に情報を収集して適切な対応に繋げることができた。(○) 連絡会の参加校は22校から13校に減少したが参加されていない中学校には必ず訪問し情報交換を行った。中学校訪問件数は121件
	(2) 防災教育の充実	(2) ア 2年間支援を受けた「防災」についてそれを継続し発展的な内容に進化させる。	(2) ア 学校教育自己診断（防災について学ぶ機会）71%→75%	エ ・中退者22名(昨年35名)で減少した。(○) ・遅刻者数 5405 回(昨年 11589 回)で半減以下となった。(◎)
	(3) 環境問題	(3) ア 継続してエコキャップ運動に取り組むことで環境問題を考え、ひいては校内美化などに結びつける。	(3) ア キャップの回収数を把握し、授業の内容や校内美化については点検する。 (85000 個→90000 個)	・1年生の人間関係構築プログラム導入(対人関係スキル向上)が功を奏し、トラブルが減少した。(○)
	(4) 健康・安全教育	(4) ア 薬物乱用防止、喫煙防止について生徒指導 HR および保健 HR において取り組む。 イ 心肺蘇生法について学ぶ機会を設ける。 ウ 感染症対策を啓発し、予防に努める。 エ 熱中症対策を啓蒙し発生防止に努めるとともに対処法を身につけさせる。	(4) (5) 講演や HR の実施状況を把握する。外部人材を活用する。	(2) ア ・本年度も府の防災教育支援事業を受け充実した防災教育取り組むことができた。自己診断の結果は () は昨年度「学ぶ機会がある」・・・74% (71%) (○) ・工夫を凝らした(地震後の火災という複合災害を想定)避難訓練を実施した。(○)
	(5) 携帯情報端末機器の扱い	(5) ア スマートフォンやタブレットについてその正しい扱い方法を知るとともに自分を守り、人を傷つけない方法を身につけさせる。	(6) 学校教育自己診断（施設・設備の安全衛生面）61%→70%	(3) ア ・回収キャップ数は思ったよりも伸びず 60000 個であったが、運動は校内に充分定着し熱心にとりこんでいる。(△) ・校内美化のアンケートは実施していないが校内の点検ではゴミのポイ捨てなどは全く見られず効果を挙げている。
	(6) 校内環境・設備の充実	(6) ア 事故防止のための環境整備に努める。		(4) ・薬物乱用、喫煙防止の研修、AED 研修(教職員向け、生徒向け)を実施した。(○) 心肺蘇生実習器具(アッパ君)購入(◎) ・熱中症対策も充実実施し、熱中症発生件数が「0」だった。(○) ・インフルエンザは早期に予防対策を周知徹底し、流行を最小限に食い止めた。(○) (5) ・スマートフォンなどの SNS 問題の啓発を9月に実施した。(生徒指導内規も改訂)(○) (6) ・体育館の耐震工事と大規模改修を行い、地震に対する安全面が強化され、照明器具も LED に変更したことで明るくなった。 自己診断の結果は () は昨年度「施設・設備の安全衛生面」・・・62% (61%) (○)